

「花と緑が
賑わいを生み出す」

■パネラー



原口美穂さん
都通りを
復活させる会代表



南里幸子さん
南里時計店



山崎誠子さん
日本大学
理工学部助教



横尾俊彦市長



渡會清治さん
㈱アールトゥ計画
事務所代表取締役

■コーディネーター

居心地のいい場所は

人が集い賑わいを生む

渡會 多駅周辺にお客さんや地域の人に来てもらうためにはどうやっていけばいいのかが、花と緑をうまく使いながら、まちをつくっていくということを考えていきます。

花と緑のまちづくりについて

原口 都通りの活動の中で広場に花壇を造り、バラや季節に応じた花を育てています。バラをたくさんの方々が目にこられて、花の力はすごいと感じました。他のまちでは、お店の前にフラワーポットや花壇があったり、一輪挿しが飾ってあったりして、癒されて観光客に対する心配りをすごく感じました。

南里 私が癒やされる場所を紹介します。まちなかにある食事処ですが、建物の中に庭があり四季折々に楽しめる花木や、小川からの流れる水で癒されます。安らぐ場所があれば、そこに人は集まると思います。
山崎 いつもまちに花があるとゴミの量がすごく減ったという話を聞いたことがあって、まちをきれいにしようとする人の顔が見えるときれいになっていくと思います。
市長 花や緑や音など、いろんな工夫をすることで、人の交流とか出会いができる。花と緑を通じ、広げること、いたわり、優しさ、美しさ、そういう気持ちがあるまちなかも広がっていくと思います。

女性にとって居心地のよいまちは

南里 私が思うのはゴミのないまちです。それとまちの中にほっと一息つける場所があればいいと思います。

原口 まちなかに木陰がありベンチや椅子で休憩できる場所があったらいいと思います。

山崎 男性と女性では空間をつくるときのスケール感が違うのではないのでしょうか。小広場や、ちょっとした空間、お店も小さなお店で囲まれ感があるところ、そういった身近に感じられる空間が好きなんじゃないかと思います。

行ってみたいくなるまちは

市長 ほっとする自分を取り戻せる場所は大切。そういう意味でも身体にいい食べ物、きつかけを作ってくれると思います。

原口 花と緑があつて、落ちつけて、おしゃべりできる時間とか休憩できる場所があるいいと思います。

南里 花と緑と水があれば心が癒やされるので、まちなかの一角にせせらぎがあればと思います。

山崎 まちなかで人に会える、語らいの場所があつて初めて花と緑が活けると思います。

花と緑でまちなかの賑わいをつくるには

原口 玄関に花を飾ったり、盆栽やガーデニングなど地域単位で周辺に花や木を育てる取り組みをすることで、まちに花や緑が

増えていくと思います。また頑張った方や地区をみんなで見守る場があれば、意欲がわいて長く頑張っているとと思います。
南里 花と緑を維持管理するための世話人が必要です。地域の方々とか、いろんなボランティアの方の力を借り、管理していくことも大事だと思います。

山崎 小さいうちから花とか緑に触れ合えるきっかけとか、環境づくりが大切。まちづくりに子どもたちが参加できる仕組みができるいいと思います。

市長 ゴミのないきれいな街をつくるのが大事だし、花一鉢、花一輪活動をみなさんの協力で広げていけたらと思います。日常の中でもっと花を活かすこともあっていいと思います。

ほっとする場所づくりと花と緑を

渡會 賑わいというのは意識して作れるものと時間をかけて作っていくものと両方あります。意識して仕掛けていくものとしては、イベントとかお祭り。時間をかけて、街のよさを引き出していくのが花と緑ではないか。花と緑、水や音、匂いなどがあつて、初めてほっとするのではないかな。そういう場所が街のなかにあつて、そこにだんだん人がいるようになる。人がいるようになれば、そこに賑わいがだんだんと生まれてくる。長く人がとどまるような街にしていくためにとても大事なものが花と緑だと思っています。

(要旨をまとめました)